



減少しつつあるミゾゴイ

ミゾゴイは夏鳥として渡来し、本州から九州で繁殖します(日本鳥学会, 2012)。主に魚類、昆虫類、ミミズなどを採餌するため、暗い森林を好みます。

巣が樹上(7~10m)であること、危険を感じると動かなくなり、首をまっすぐ伸ばして樹木に擬態する習性があることから、まず発見自体がちょっと困難です。

また繁殖期は日中でも行動するようですが、主な活動時間は朝夕の薄暗い時間と思われ、観察者が山道を歩く時間とは一致しません。

これらの理由からなかなか確認・記録が少なく、正直なところ「どこにいるか」すら明確ではありません。

そのため山間部の開発や伐採などによる営巣地の破壊、また人間の諸活動のため森林が明るくなったり、餌動物の減少などによる環境悪化により、知らないうちに減少している野鳥の一つです。日本全体のレッドデータブックでは絶滅危惧 II 類 (VU) (2002, 環境省自然環境局野生生物課)、香川県のレッドデータブック (2004, 香川県希少野生生物保護対策検討会) でも同じく絶滅危惧 II 類 (VU) に区分されており、生息状況の把握と、それに基づく営巣地の保全が必要な種といえます。

「珍しいから見たいなあ」という気持ちがスタートでも結構ですが、ぜひこうした状況を踏まえ、もし見つけたらミゾゴイに悪影響を与えない範囲で観察・記録を行い、本会への報告等、少しでもミゾゴイ保護の基礎資料の蓄積にご協力ください。



▲ミゾゴイ 2012.4.8 PHOTO©坂田和男 綾川町

出会いにくいけれど、います。

さて、ではどこにいますのでしょうか。まずは過去の観察記録から、シーズンを探ってみましょう。

香川県では 1968 年の文献から記録されており (1968, 岡内英孝)、綾歌郡綾南町 (1968, 岡内)、高松市伏石町 (1974, 山本)、香川郡塩江町 (1979, 山本) などでの記録があります (1980, 香川県環境保健部自然保護課)。なおこのうち高松市伏石町の記録は、通過中の個体が衰弱して一時保護されたもので、生息地の記録ではありません (1984, 山本)。

香川県での繁殖期は 5~7 月頃と思われますが (1993, 香川県)、他に渡り途中の記録として、2011 年 4 月に高松市峰山 (2011, 伏見) で、1984 年 9 月 5 日他に丸亀市本島で観察されています (1989, 金関正彦)。前述の高松市伏石町での保護は 5 月 26 日 (1970 年) でしたので、香川県での生息サイクルとしてはおおむね 4~5 月渡り、6~7 月繁殖、9 月~渡りではないかと考えられます。

次に、地域を見てみましょう。上記記録のほか、2002 年には三木町、塩江町、高松市、財田町などの山林

で繁殖が確認されてます(2004, 香川県)。同一年での繁殖確認ですから、重複個体でもありえず、その広がりがあります。

他に近年の記録として、4月に綾川町大高見峰(2012, 坂田)、同じく4月と7月に琴平町琴平山(2013, 川俣賢司)、6月にまんのう町塩入(2013, 水野)の記録があります。これに渡り時期の峰山、高松市伏石町、丸亀市本島などの事例を考慮すると、ほぼ県内全域で可能性があると考えられます。

最後に、具体的にどのような環境を好むのでしょうか。県内で複数の営巣を確認した山本正幸氏は次のように整理しています(2004, 香川県)。

生息環境 落葉広葉樹がよく茂った低山の暗い谷間で繁殖する。そこには溪流があり、湿気が多い。営巣木は、フサザクラやムクノキなどの落葉広葉樹が多い。また、営巣地周辺の谷間には、餌になるミミズ類、水生昆虫、サワガニなどの小動物が多く生息する。

他の文献でもおおむね同様です。渡り時期でも餌は大きく変わらないでしょうから、こうした薄暗い落葉広葉樹林の谷筋・溪流沿いには要注意、ということになります。

出会ったらどう行動すべき？

時期を踏まえて考え、行動することが重要です。

過去の記録から、香川県における確実な繁殖シーズンは6月～7月と考えられます。ですからこの時期は、発見場所は営巣場所に近い可能性があること、出会うのは繁殖中の親個体であることから、「その親が危険を感じてそこを放棄すれば、繁殖は失敗する」と分かります。そうすると、「繁殖を妨害しない」ということが最優先となります。居座って観察・撮影すること、また営巣木を探し回することはやめ、すみやかに離れましょう。また連続して訪れたり、多くの人に情報を流して入れ替わり現地に行く等、頻繁に訪れることも避けた方が良いでしょう。親鳥が安心して繁殖すれば、今後も毎年そこで出会える可能性が続きます。それを優先しましょう。

もし営巣木を見つけたら、できるだけ早く立ち去りましょう。親鳥が戻れないと、雛は飢えることとなります。特に親鳥や雛が擬態をしていれば、それは観察・撮影者を外敵として恐れている証拠です。そんな写真は、観察者が悪影響を与えている証拠写真にしかたありません。速やかに立ち去りましょう。

渡りの時期としては、4月上旬は通過中の可能性が高いですが、遅くなるにつれ繁殖場所に近づきつつあることとなります。ですから5月に入れば、「繁殖場所近くかもしれない」という意識をもって行動しましょう。

逆に8月は巣立ち雛との遭遇がありえます。これもできるだけ早く離れてあげましょう。9月以降になれば、渡り途中の可能性が高くなりますので、ちょっと安心して観察・撮影ができるかもしれません。かといって、執拗に追いかけてまわすことは厳禁です。

いずれの時期も、そもそもミゾゴイは暗い森林を好む・擬態を行う＝かなり警戒心の強い鳥、そして減少しつつある鳥という認識をもって行動してください。

- ・2002,環境省自然環境局野生生物課. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック〈2〉鳥類
- ・1968,岡内英孝. 香川県に於ける野鳥の生態,岡内英孝
- ・1984,山本正幸 編集:高松市立図書館. 市民文庫シリーズ 11 香川の野鳥,高松市立図書館
- ・1989,金関正彦. 「丸亀市本島の野鳥雑録(1981～1988)」,62 種,「香川生物」(香川生物学会)
- ・1993,香川県. 香川県のとりとけもの 平成 5 年 3 月,香川県
- ・2004.3,香川県希少野生生物保護対策検討会. 「香川県レッドデータブック 香川県の希少野生生物」
- ・2011,伏見 弘. 鳥便り(ミゾゴイ),かいつぶり(329) 2011 年 6 月号、日本野鳥の会香川県支部
- ・2012,坂田和男. 香川の野鳥を守る会へのフィールドノート報告.
- ・2013,川俣賢司. かいつぶり(表紙・ミゾゴイ), かいつぶり(355)2013 年 8 月号、日本野鳥の会香川県支部.
- ・2013,水野寛美. 鳥便り(ミゾゴイ), かいつぶり(355)2013 年 8 月号、日本野鳥の会香川県支部.